

『ひたち』日立

1938



1938(昭和13)年1月号
創刊号



1944(昭和19)年4月号
この号の後、戦争により約2年中断



1955(昭和30)年10月号
家庭電化時代の始まり



1962(昭和37)年5月号
機械式ショベル

1959(昭和34)年9月号
黒四ダム建設中(4年後に完成)、日立のクレーンが活躍

1910年に創業した日立は1918年、技術研究・紹介を目的として日本の製造業初の定期刊行物『日立評論』(月刊)を創刊。それに遅れること20年、専門誌である『日立評論』に対し、一般のお客さまとの間を結ぶ情報誌として1938(昭和13)年に誕生したのが『日立』(現『ひたち』)だ。明治以降の急速な工業化を経て、日本は欧米に次ぐ技術力を身につけ、その恩恵が社会・家庭にも浸透し始めたこの時期。都市化が進み、電化・機械化が進展、大衆消費社会の基礎がつくられた時代だ。以来、戦後の復興から高度成長、ハイテク・情報化革命、グローバル化と地球環境問題——『日立』は70年以上にわたって科学・技術の発展と社会・生活の変化を見つめてきた。



1943(昭和18)年12月号
電話機、自動交換機など通信機器の紹介



1955(昭和30)年12月号
産業機器、家電製品のポスターを紹介



1956(昭和31)年10月号
家電製品、10円で何日使える?



1962(昭和37)年5月号
キュービックタイプの冷蔵庫は日立が先駆け



1959(昭和34)年9月号
黒四ダム建設中(4年後に完成)、日立のクレーンが活躍

『ひたち』休刊のお知らせ

弊誌『ひたち』は、今号をもって休刊させていただきますことになりました。

弊誌は1938(昭和13)年に、月刊誌『日立』として創刊いたしました。以来、科学・技術と社会、生活との結びつきなどをテーマに、70年以上の間、発行を続けてまいりました。

永きにわたり、ご愛読、ご支援いただき、ありがとうございます。また、これまでご寄稿いただいたみなさまや、取材・制作にご協力いただいたみなさまに、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

『ひたち』は休刊となりますが、今後とも引き続き日立グループをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

『ひたち』編集部



1999(平成11)年5月号
ロゴを「ひたち」に、本文
縦組みに



1997(平成9)年1月号
半導体写真のCG処理シ
リーズ



1985(昭和60)年1月号
RAMウェハー



1980(昭和55)年2月号
光ディスク



1975(昭和50)年2月号
エレクトロニクス技術の
時代



1968(昭和43)年1月号
日立のシンボル、日立海
岸の日の出



2004(平成16)年 冬号
特集と連動したイラスト



1969(昭和44)年6月号
大形コンピューターHITACの生産体制を強化



1968(昭和43)年5月号
山口の笠戸工場から大阪へ、
新幹線車両の運搬ルポ



2009(平成21)年 冬号
「手稿」シリーズ



1989(平成元年)11月号
216回('75-'96年)にわた
つ連載「技術史の旅」

1981(昭和56)年5月号 パソコン時代到来



編集後記

特集では、地球規模の気候変動のしくみを探るカギになる、海のメカニズムにかかわる最先端の研究について取材をしました。2000年ものサイクルで循環する深層水や、大気と海の間で行われる炭素循環など、興味をもっていたいただければ幸いです。

『ひたち』は本号で、休刊させていただきましたことになりました。永く本誌を応援いただき、心より御礼申し上げます。(伴野)

本号では、地球規模の気候変動と海のメカニズムや、宇宙創成の謎を解く素粒子の研究など、普段あまりなじみのない分野の方々に、お話をうかがいました。このような先端研究の一端を、お伝えできたいと思います。

本誌ではこれまで、さまざまな分野の方々に、取材にご協力いただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。(石井)

ひたち 2009 Vol.71 No.3 Summer

発行人 荻原 淳
編集人 伴野 明
発行所 日立評論社
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1
企画・編集 ©株式会社 日立製作所
コーポレート・コミュニケーション本部 宣伝部
tel.03-3258-1111 (大代表)
制作 株式会社アルシーヴ社
デザイン 河合千明デザイン室
印刷 ©日立インターメディックス株式会社
取次店 株式会社オーム社
〒101-8460
東京都千代田区神田錦町 3-1
tel.03-3233-0641 (代表)

◎本誌ホームページ◎ www.hitachi.co.jp/Sp/hitachi/